



住田町は、かつて人口1万3千人を超える時代もあった。現在の人口は5千5百人ほどである。過疎化や後継者確保等の問題が以前にも増して顕著になってきており、地域の存続そのものが危ぶまれている。

時代の移り変わりは社会を大きく変え、右肩上がりの経済発展は過去のものとなった。AI（人口知能）やロボット化が進み、何十年か先には今ある仕事の半数はなくなっているだろうと言われる。この先、生徒達をどのような社会が待ち受けているのか予見しにくい。

今まで私達は、一つの答えをいかに早く正確に導き出すかに取り組んできた。しかしこれからは、正解のない問題を他者と力を合わせ解決にあたろうとする力が求められる。

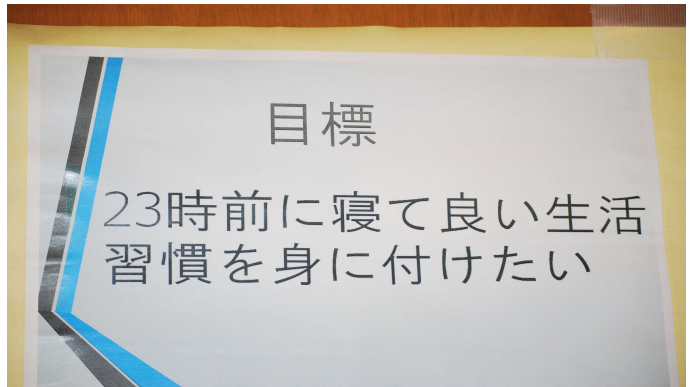
地方では地域を支える人材の育成が急務である。今まで地域を学ぶ取り組みは数多く行われてきたが、地域を支える人材を育成しようとする意図的な学習は稀だったように思う。「地域はそこにあり続ける」とすれば、それを担う人材がなければならない。学校教育にはそれをねらいとする教科が必要なのではないかと考える。

住田町では、これからの社会をたくましく生きようとする子どもの育成と、地域を愛し、地域に誇りを持ち、地域を支えようとする心を育むために、文部科学省から研究開発学校の指定を受け、教科としての「地域創造学」に取り組んでいる。

住田高校では、9月29日（水）文部科学省指定研究開発学校「地域創造学」公開授業が実施されました。1年生は「自分を知る」をテーマとして、日常の生活の中で自分自身が課題だと考えていることを取り上げて発表しました。自分はどのような人間で、どのような得意分野があるのかを知ることは、これから社会に貢献していく上で重要となると考えるからです。自分の日常生活における課題解決を図る「ちょっとチャレンジ」と題された内容を以下にまとめてみます。

1年A組	テーマ	1年B組	テーマ
今川 楓紀	素振りをしよう	上野 琉惺	スウィング
及川 拓磨	体重75kgになる	遠藤 陽斗	スマホの時間をへらす
小野田 梨乃	5冊以上漫画を読む	大澤 那緒	23時前に寝る
菊池 豪	ダンスを覚える	小野 恒臣	小説を読む
熊谷 壮徠	同じ本でいいから読書の時間を増やす	菅野 良稀	早寝早起き
小島 菜生	ニュースを見て自分の意見を持つ	菊池 獅道	自宅で毎日素振り100回イメージしながらやる
紺野 大道	新しい変化球を投げる	菊池 匠巳	いつもより早く寝る
佐々木 匠	運動（筋トレ）とお手伝いをする	金野 紅愛	部屋のかたづけ
鈴木 琉月	マンガの1話の下書きを完成させる	金野 直人	バットとお友達
高橋 真奈	毎日家のお手伝いをする	栗山 萌	読書をする
千葉 展	早寝早起きする	齊藤 桜汰	ミスをしないようにしっかりやる
中館 美羽	人の話を聞く 人の話の内容を理解する	佐々木 好香	1日2時間学習
新沼 梨聖	地域の人に挨拶する	菅原 理聖奈	公共の場（学校）で荒い言葉を使わない
藤田 嘉生	本を5冊以上読む	千田 詢	全力でテニスを楽しむ
前川 心美	家事を色々やる	中名生 せな	レッツアルバイト
村上 万莉	再チャレンジ	西村 愛珂	皿洗い
村上 夕莉	楽しむ時間を増やす	水野 香梨	質の良い睡眠をとる
山本 未蹟	釣りに行く		

日常的に十分な睡眠をとれていなかったり、読書量や勉強時間が不足していると自覚していたり、家の手伝いをしなければならないと思った生徒もいれば、部活動や趣味をテーマとして取り上げた生徒もいます。一見、大きな課題には見えないかもしれませんが、大きな課題の解決も小さな身のまわりの課題解決なくして達成することはできません。生徒たちには、自分自身や身のまわりの小さな課題の解決を積み重ねることによって、それを達成できた自分に自信をもつことが大切であることを理解してほしいと思います。



司会者は発表時間（3分）の計測と発表後の意見交流の進行を担当してくれました。発表者は自分の考えを相手にわかりやすく伝えるための工夫が求められます。



—研究内容について工夫を凝らしながら発表する1年生—



生徒達の発表会には、前校長の菅野誠二先生（水沢高校校長）、本校卒業生である菅野修一先生（水沢農業高校校長）、旧職員である二階堂希先生（盛岡第一高校教諭）、本校元副校長の高畑敏孝先生（岩谷堂高校講師）、岩手県立総合教育センター所長の村上弘先生、岩手県教育委員会指導主事の砂沢剛先生が来校し生徒達への助言をしていただきました。また、住田テレビの三村直人様、NHKの村上浩様も来校し、生徒達の発表の様子を撮影していただきました。



2・3年生は「すみハピ！2021」をテーマとした発表会が実施されました。1年生は身近な「自分のこと」を中心とした発表でしたが、2・3年生は地域の課題を発見し、その解決に向けた取組を発表しました。各発表者の生徒にはチューター（助言者）が配置され、研究内容を深めてきました。先生方や教育コーディネーターの指導方針は「指導」ではなく「支援」、「先導」ではなく「伴走」を心がけ、生徒の興味関心のあることや学びたいことを最も大切にする指導や助言が行われてきました。1年生は先輩方の発表会を視聴し、研究の進め方と発表の仕方を学びました。以下に発表テーマを紹介します。

クラス	発表者氏名	テーマ	内容
2 A	藤畑 大成	ダン広プロジェクト	ダンスの良さを広める。
2 B	小林 愛実	不登校の児童・生徒を支援する	不登校経験者や支援団体に取材しながら不登校の実態を知り、私たちができる支援を考える。
2 A	岡崎 海樹	自分の地域を住田に伝える	住田町で行われる行事に参加し、イベントの中で「吉浜クイズ」を行う。
3 A	佐々木 愛花	メープルシロップ（石けん）	住田町で採れたメープルシロップを世の中に広めるため、メープルの香りがする石けんを作り、PRしていく。
3 B	平野 聖実		
2 A	高木 琴加	住田町のクイズ計画	住田町に関するクイズをつくり、それを通して住田町のことを知ってもらう。
2 B	小岩 鷹	保護猫に首輪をつくってあげる	保護猫施設にインタビューをして、活動の意義や具体的なつくり方を学ぶ。
2 B	長野 冬詩	陸前高田のランニングコースをつくりたい	陸前高田の風景や地形を生かしたランニングコースを考え、さまざまな人に走ってもらう。
3 B	水野 翔耶	環境整備（世田米の町を中心に）	住田町の小中学校のみなさんにご協力いただき、町内の危険箇所をあげ、安全対策などを考えて町に報告する。また、小中学校へも考えた安全対策をお伝えする。
	村上 龍之介		



—発表会前の全体ガイダンス—



—3分間の発表時間を計測する司会者—



—スクリーン上に発表内容を提示—



—メモを取りながら先輩の発表を聞く1年生—



—メープルシロップの研究成果について発表する3年生—



—発表内容について意見を述べる1年生—



—発表後に記録者報告をする2年生—



—発表会終了後の授業研究会の様子と「地域創造学」に全面的に協力する教育コーディネーター—



生徒の発表会終了後に教職員全員と教育コーディネーターによる「授業研究会」が開催されました。感染症予防のため、今回は限られた人数での開催となりました。研究開発学校事業担当の菊地均先生が授業に係わる趣旨説明を行った後で、教務主任の利府崇先生の司会により活発な議論が交わされました。

授業研究会の後には「講演会」が実施されました。住田町役場から各会場（世田米小学校・有住小学校・世田米中学校・有住中学校・住田高校）へオンライン配信されました。講師として上越教育大学大学院准教授の河野麻沙美先生をお迎えし、「探究が地域を創る：学びと育ちを支えるカリキュラムづくり」と題して、今後の住田町の発展を担うことになる児童・生徒を育成するための貴重なお話を伺うことができました。講師の河野先生は本校生徒の発表の様子をご覧になり、教師や教育コーディネーターが密に連携して目立つことなく生徒たちを支え、生徒が自分たちで主体的に発表会を運営している姿を見て大変感動したとのお話をいただきました。今回の授業公開・研究会の成果を次のステップにつなげていきます。